



日本女医会誌

復刊第 189 号
2007 年 1 月 25 日発行
題字 吉岡彌生



巻頭言

日本女医会が取り組む絶好の機会

副会長 角田由美子

明けましておめでとうございます。会員の皆様にはお健やかに新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

2000 年の、コンピュータトラブルが懸念されたお正月はついこの前と思われまして、はや 7 年がたちました。この間に医療を取り巻く環境は大きく変わり、いつの間にか医師不足と云われる時代になりました。その責任の大半は女性医師にあるかの様な報道もされています。医師不足と云ってもそれは地域別偏在と診療科別偏在により引き起こされたことなのですが。

確かに女性医師は増えており、その就労状態が医師不足と云われる原因の一つかもしれません。しかし若い女性医師達は、働きたくても働けない事情もあるのです。

日本女医会の 100 年余の歴史を振り返って見ます

と、一人前として認められなかった時代を経て、社会的な地位はいまだしながら収入はある程度保証され、保育や家事要員を確保するだけの経済的なゆとりが得られる時代がありました。しかし現在は、母親となった医師達が働き続けるには何もかもが中途半端です。十分な収入も無く、教職員の様なきちんとした産休制度もなく、すべてが個々人の努力のもとに医療が行われています。

医療の質は高度になり我々はそれを提供しなければなりません。なま半可な知識では医師として働くことは許されません。

そこで日本女医会では病児保育も出来る院内保育所をと声をあげてきました。徐々にではありますがそれらの必要性が社会に認められてきているようです。医師の再教育も考えています。医師を目指した女性の殆どは、生涯、医師として働き続けたいと願

日本女医会誌 (第189号) もくじ

巻頭言	角田由美子 (1)	長野支部	長谷川京子 (8)
女医会年賀状	小田 泰子 (2)	総会に向けて	神奈川支部 小関 温子 (10)
年頭所感		第 52 回定時総会のご案内	(10)
	群馬支部 田所 浪子 (3)	国際女医会ニュースリリース	内湯 安子 (12)
	埼玉支部 深井登起子 (3)	「女性医師の働く環境整備のための国内勉強会」に出席して	大坪 公子 (13)
	千葉支部 秋葉 則子 (3)	「少子化と男女共同参画に関する社会環境の国内分析等について聞く会」を傍聴して	藤川真理子 (13)
	神奈川支部 大竹 輝子 (3)	宮城県女医会 市民公開講演会「悩まないで！尿のトラブル解決します」	宮城支部 樋渡奈奈子 (14)
	大阪支部連合会会長 野崎 京子 (4)	健やか親子 21 関連事業	
	大阪第 1 支部 村上 康子 (4)	「十代の性と健康」指導者養成講座	対馬ルリ子 (15)
	大阪第 2 支部 肥塚 典子 (4)	会員動静	(15)
	大阪第 4 支部 望月喜久子 (4)	〈支部だより〉「京都支部のつどい」	
	大阪第 8 支部 宮本 治子 (5)	京都支部 石川 知子 (16)	
	京都支部 石川 知子 (5)	〈書評〉「医心伝信」	大坪 公子 (17)
委員会報告ほか		〈私の大学〉「藤田保健衛生大学」	
子育て支援委員会	鹿田 儀子 (6)		愛知支部 鈴木由美子 (17)
長寿社会福祉委員会	松井ひろみ (6)	理事会議事録	(20)
輪が輪を生み出す温かい事業		お詫びと訂正／編集後記	広報部 (23)
足立区立本木保育園	神保 直美 (6)		
女性医師支援に対する取り組み	秋田支部 小笠原真澄 (7)		
信州大学におけるワークショップ			

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

うでしょうし、結婚して子供を持つことも将来の設計図にあるでしょう。これらの夢が挫折することが無いように日本女医会は手助けしたいと願っています。

女性医師が増えて、対外的には日本女医会は認められて来ているように思われます。色々な働きかけも来ています。ただ女性医師にはなかなか認めて頂けず、現在はご存じない方が多いのも事実です。重ねてお願いいたします、会員の皆様には周りの女性医師達に一声かけて下さい。女性同士でなければ理解しあえない事などを話し合っ、一緒に解決方法

をみつけましょうと。

医師不足に関しては、マスコミももっと核心をついた取り上げ方をして欲しいです。医療にもっと国家予算をまわして頂ければ諸々の問題は片づくのではと思われます。

昨年度スタートした二つのプロジェクトは着々と成果を上げて来ています。今年も引き続き発展させていきます。前年度、前々年度のプロジェクトも継続事業として計画しています。各地での展開を考えておりますのでどうかご協力下さいますようよろしくお願い致します。

日本女医会年賀状

会長 小田泰子

新年明けましておめでとうございます。毎年元旦に、新年の決意、希望を書き留めています。ここ数年の達成率は50%くらいです。昨年は全く思いがけず日本女医会会長に選出され、戸惑いながら新しい経験をさせていただいています。背伸びをせずにあるがままに生きていきたいと考えます。

昨年は、天皇家に親王が誕生され、皇室典範改定議論が棚上げされています。

皇室典範というのは皇位継承・皇族・摂政・皇室会議その他皇室に関係ある事項を規定する法律で、現在の規則は1947(昭和22)年に制定されました。

皇室典範の第一章、第一条に「皇位は皇統に属する男子が継承する」。第二条は皇位継承順位で「一 皇長子、二 皇長孫、三 その他の皇長子の子孫、四 皇次子及びその子孫…」とあり、第九条には「天皇及び皇族は、養子をする事ができない」と規定されています。

2001年、皇太子ご夫妻に敬宮愛子さまが誕生されて以来、愛子さまは女性であるために皇位継承権がないのは男女平等参画社会実現の観点から見直されるべきであるという意見が出され、衆議院憲法調査会は女性天皇についての議論を進めていました。

現在の天皇は第125代目ですが、これまでに日本には8人の女性天皇(女帝)がいました。

その初めは第33代推古天皇(554～628)です。推古天皇は欽明天皇の第三皇女で、敏達天皇の皇后でした。推古天皇は聖徳太子を摂政とし、冠位十二階の制定・十七条憲法の発布など、大いに治績を挙げました。女帝の4人目は持統天皇(645～721)です。持統天皇は天智天皇の第二皇女で、天武天皇

の皇后でした。天皇が崩御し、皇太子・草壁皇子の没後に即位されました。万葉歌人としても有名で小倉百人一首に「春すぎて 夏來にけらし白妙の衣ほすてふ天のかく山」が選ばれています。5人目の女帝・第43代の元明天皇(661～721)は天智天皇の第四皇女で草壁皇子の妃でした。元明天皇は710(和銅3)年に都を藤原京から平城(奈良)に遷し、太安万侶(オオノヤスマロ)らに古事記を撰ばせ、諸国に郡郷の名前の由来、地形、産物、伝説などを記した地誌(風土記)を提出させました。当時の風土記のうち出雲風土記がほぼ完全な形で今日に伝えられており、古事記と共に貴重な学術資料として研究に資しています。

女帝はそれぞれに有能で、立派な業績を残していることが分かります。

2002年に読売新聞が女性天皇について調査をしました。大凡の数字を示しますと、女性天皇の誕生に、女性は賛成83%、反対12%。男性は賛成76%、反対15%でした。男性にも賛成者が多いのを心強く感じます。しかし、今ならどういう結果が出るでしょうか。



●● 年頭所感 ●●

先輩からの絆をうけて

群馬支部 田所浪子

明けましておめでとうございます。

偉大な先輩岸直枝先生、角田智恵子先生の後をお受けして1年になります。女医会では何時も末席の私も終戦の年入学した福島女子医専に2年、昭和22年には男女共学の第一号として前橋医専に転入学しました。今、群馬大学医学部の女子は30%をこえる勢いです。その先輩である私が県女医会の架け橋となるべく立ち上がりました。現在群馬県でも女性医師の問題がクローズアップされ、県医務課が「おかえり、女性医師の皆様へ」というパンフレットを作製し、県女医会に協力を求めてきました。そこで私共は群大医同窓会とも連絡し会報に一文を掲載し、全卒業生に呼びかけることに致しました。今こそ県女医会が力を発揮できる好機だと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

子どもたちを守るために

埼玉支部 深井登起子

新年おめでとうございます。

昨年は子ども（乳児、小中校生）に関する悲惨なニュースが後を絶たず、自殺や虐待など、以前にはなかった事件が急増し、衝撃と悲痛な思いにかられます。原因は多岐にわたるようですが、行政の対応が曖昧で時期を失している現状です。

私を感じますのは、子どもの心が大人に対して開かれていないこと、子どもを守るべき大人達の力を子どもが信頼していないのだということです。

埼玉支部では一昨年、公開講演会で「軽度発達障害をめぐって — 障害から才能へ」、昨年は「ママがする自閉症児の家庭療育」と、コミュニケーションが上手にとれない子どもたちに如何に対処すべきかを学びました。保育園医や学校医をされていらっしゃる先生方、どうぞ情報をお寄せ下さい。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

働く女性医師の明るい未来

千葉支部 秋葉則子

明けましておめでとうございます。医学部入学者に女子学生の占める割合が30%を越す勢いになってきました。何年か後には50%にもなるかも知れないとのことです。女性医師の数が増加することは嬉しい限りですが、医療環境の整備は並行して進展していないのが現実です。私たちの先輩達が今まで苦勞を重ねてきたのにまだこの状況です。ここで声をあげ、行動をおこさなければ改良されないでしょう。

今年はまさにつぼみから花が少し咲く時が来たのではないのでしょうか。大いに期待しております。

平成17年12月3日に千葉県医師会に女性医師部会が立ち上がり、女性医師の働く環境整備、若い女性医師、研修医、女性学生へのサポート、ドクターバンクを事業の柱としました。行政でも医師再就業支援事業、ドクターバンクに着手し動き出しました。日本医師会男女共同参画委員会においてもこの事業がスタート致しました。一歩踏み出したことは確かです。明るい未来が近々来ることを祈ります。

輝ける2007年

神奈川支部 大竹輝子

年が明ける度に今年こそは良い年でありますように……と、心を新たにしますが、なかなか思うように行かないものです。

昨年中はいやなニュースが目立ち、親殺し、子殺しを始め幼児虐待やら、最近には低学年層の自殺など、聞くに耐えられないような事ばかりです。

また身近では医療現場にも由々しき事態が刻々と迫って今にも保険医療は破綻するのではという危機感があります。

しかしながら一方、年毎に女性医師の割合は多くなりつつありますし、その働く環境の保全、また子育て支援策も具体的に動きつつありますし、今年はお一層力を込めて望みたいと思っています。

ちょうど、本年五月に日本女医会総会が神奈川県で開催されますので、若き女性医師のエネルギーを結集して、できる限りのお仕事をさせていただきます。

そして今年こそは「輝ける2007年」でありますように、皆様のご尽力をお願い申し上げます。

新しい年を迎えて

大阪支部連合会会長 野崎京子

明けましておめでとうございます。

昨年度より大阪支部連合会会長をさせていただきます。従来、大阪地区は便宜的に監事の先生が大阪支部長の代表をされてきました。しかし、一昨年11月に大阪で開催された「病児保育ワークショップ」をきっかけに、誰か実働出来る大阪地区のまとめ役が要ということで、とりあえず私が担当させていただきます。それ以来のご縁です。新しく出版された名簿には大阪の代表は川田喜代子監事（大阪府女医会会長）のままになっておりますのはそのような事情です。今のところ大阪地区独自の活動はあまり出来ておりません。しかしこれからは日本女医会の地方組織として大阪の活動を見直す時期にきています。日本女医会は本部の新執行部の人事に伴い、これからの活動はますます盛んになると思います。私ども大阪の会員もそれに柔軟に対応して活動の幅を少しずつ広げていくつもりです。どうか宜しくお願い致します。

年頭所感

大阪第1支部 村上康子

明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、先ずご多忙中、日本女医会会員のために前向きに活動が続けられておられる幹部諸先生に深謝申し上げます。

女医会の活動源は多人数のエネルギーだと思います。現状は全女性医師の中での日本女医会会員数はまだ少なく、先ず会員を増やすことが大きな課題だと思われれます。当支部でも93名の女性医師中、女医会会員数は6名で1割にも及びません。

入会勧誘に際し、「男女同権の世界に何故女医会が？」という返事が多く、若い後輩達に女医会活動の重要性を認識してもらうことが大事だと思います。

例えば、卒業時に封書で「女性医師が仕事を続けるための問題点、出産、育児期間の対策改善、女性の悩みを聞く相談室の設置」等々多くの活動状況をPRし、結束の呼びかけをしては如何でしょうか。

各分科が力を合わせて

大阪第2支部 肥塚典子

明けましておめでとうございます。

「命」という字を残して、新しい年が明けました。振り返ってみると昨年は私たち医療の第一線で働いている者にとっては、特に大切に思っているこの「命」が、理由もなく粗末に扱われた年でした。悲しい出来事が多く起こりました。

新しい年にこそ国民全体が力を合わせ、人間が大切にされるよう努力せねばならないと思います。医学部入学者の内、女子学生がしめる割合が40%近くになったように報じられています。各地区、各分科の女性医師たちが、夫々の分野の力を合わせて行動をおこす新しい年にならねば、と思います。

若い女性医師たちの行動力に期待と夢をかけること、それを支える日本女医会の活動を祈り、年頭の希望に致します。

年頭雑感

大阪第4支部 望月喜久子

あけましておめでとうございます。

平成17年に再入会をさせていただきましたが、最初の入会から20年余りになります。当時、間もなく大阪のツインタワーMIDシアターで定時総会があり、山崎会長始め大勢の会員が出席され盛大に開催されたことは懐かしい思い出です。また、平成10年にはロゴマークに応募、もちろん入選できませんでしたが。

平成13年に交通事故による椎間板ヘルニア及び脊柱管狭窄症の手術を受けましたが、後遺症に苦しみながら3年間退会しておりました。

数年来、医療改革の名の下に診療報酬改定の余波を受け、医療費抑制による患者負担の増額、福祉政策の後退など、医療環境の悪化が問題になっています。安倍首相が称える美しい国日本を造るためにも、先ず国民の健康が第一と考えます。これからの日本の医療を支える若い世代の先生方、特に女性医

師が声を大にして医療環境の改善に立ち上がって頂きたいと思います。

最後に日本女医会の益々の発展を祈念致しますと共に微力を尽くしたいと思います。

年頭所感

大阪第8支部 宮本治子

新年あけまして、おめでとうございます。

何年ぶりの太陽のめぐみいっぱいの暖かいお正月を諸先生方でお迎えになられたことと思います。

最近の子供達に関する、暗いニュースを聞くにつけ心の寒い思いでございましたが、晴れわたったお正月の景色は何よりの心の御馳走でございます。

大自然のめぐみを胸いっぱい大きく吸い込んで心から幸福感を満喫させていただきました。

21世紀は、「心の時代」といわれた幕開けからはや2年がたちました。

より一層心の大切さが身にしみることです。今日（こんにち）命そのものが危うくなってきているように思われます。戦後“女と靴下”が強くなったといわれて久しくその背後で失ったものの大切さがひしひしと感じられます。そのかわりに私達は何を失ってしまったのでしょうか。

日本女医会も今年で105年目を迎えました。栄えある女医会に入会させていただきました本当に感謝の心でいっぱいでしたが何も出来ず、ただ日々が過ぎていった事を申し分けなく思っております。

先輩の女医の先生方が築いてこられた名誉と信頼を守っていく事が何とむずかしくなっていることでしょうか。

女医であると同時に天職である医師として職業をまっとうしながら男性中心の医学会において男性の何倍もの努力と研鑽によって女医としての地位を築いてこられた先生方に敬意を表します。

男性とは違った感受性をもって女性の側から医学の発展に貢献された女医会の恩恵を私達は、充分いただいております。

今後増え続ける女性医師の方々が女性としての生活を守りながら人間として医学を続けられるように願ってやみません。

男性医師と協力し助けあいながら医学医療福祉発展のために女性の特性を生かし子供達の未来の為に母性を守り、子供達の健康を守り、これから益々重要に成っていく教育現場での身体と心の健康づくり

運動に、胎児期から始まっている健康づくりに貢献し‘男性’‘女性’という性をもった両者のかかわりの中で子供達が生まれて来てよかったと思える「自然の美しい国日本」の国づくりに女医会として参画して行ってほしいと思います。

“子すずめが群れて蜜吸う春日かな”

治子

年のはじめに

京都支部 石川知子

白川の 水音絶えず 事始 速水 進

京都祇園の事始めの「事」は正月を祝う準備のことです。「おめでとうございます。おたのもうします。」と挨拶、「おきばりやす」と声を掛け合う風情を目にします。

年が経つのは早いもので、平成15年より私が支部長を務めさせて頂いております。

その間、嬉しいことに新入会員が6名増え、今まで参加していなかった会員の方々の参加もありました。京都での第8回ブロック別懇談会の開催ではたくさん先生の先生方に参加して頂きました。さらに、お目出たいことに第51回定時総会で吉岡弥生賞に松本文絵先生が選ばれました。また、長い間副支部長をして頂いております仁科周子先生に感謝しております。

女性医師の比率が増加するにつれて、女性医師に対してのさまざまな意見が出ています。良きも悪きも色々な評価にしっかり耳をかたむけ、今巷で話題の「国家の品格」という本の題のように、「女性医師の品格」を持って後輩達の良いモデルとなるような会に発展させたいと思います。



第51回定時総会にて吉岡弥生賞を受賞される松本文絵先生

子育て支援委員会より

21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業

委員 鹿田儀子

子育て支援委員会は、18年5月にスタートし、委員会を月1回のペースで開き、事業を進めています。12月現在までに、講演会を東京、栃木、埼玉で開催しました。また、保育園、幼稚園、保健センター等でのミニ講演会を東京12回、栃木9回、埼玉4回、神奈川1回と各地で行っています。現在は関東周辺ですが東北、関西、九州地区においてもそれぞれの地区の小児科専門医と日本女医会員の協力をお願いして開催する予定です。講演会時に行っていますアンケートも2,000を超え、子育て中の保護者の問題点を知る資料として非常に参考になります。参加者の意見は救急医療のかかり方を通して日常の子育ての疑問点なども知ることが出来たと、どの会場でも好評です。現在は、アンケート結果を分析し、小冊子の製作の準備をしています。子育て中の保護者にとってこの事業が役立つようお願いしてまいりますので会員の皆様のご指導、ご支援をお願いいたします。

長寿社会福祉委員会より

女医会発展につながる事業として

委員長 松井ひろみ

女医会の活動の一つに、「長寿社会福祉基金」の助成事業である「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」があります。医療行為であるたんの吸引について、「一定の条件の下、患者さんとの合意の上で介護者が行ってもやむをえない」という厚労省の通知が出ましたが、実際には介護者が教育を受ける場もなく、緊急時にはリスクの高い医療行為をやらざるをえないのが現実です。そこで、介護者が患者さんと安心、安全を共有しうる医学的知識、実技等を修得するための教育講習としてこの事業がスタートしました。

大坪公子委員長他、外部委員を含め9名で委員会を発足し、18年度から2ヵ年計画で行います。初年度は4,556千円の助成を受け、20分間のDVD、ビデオの作成と、9月三軒茶屋病院で48名、10月東京福祉大学で103名の定員を超える参加者をえて、2回の講習会が終わりました。当日は講演に続

き、手洗いの実技、人形モデルでの解剖学、吸引器16台でグループを組み医師や看護師からの指導と相互の実習等を行い、2回とも会場は熱気にあふれ、参加者も実に熱心に受講され、この事業の必要性、時機をえた活動である事を痛感しました。終了時のアンケートも参考にしています。第3回は2月4日練馬区共催、練馬区医師会後援で開催する事が決定しています。19年度は大阪、名古屋、福岡、仙台等全国展開を予定していますので是非ご協力をお願い致します。今日まで女医会では、働きやすい職場環境整備、より良い社会環境づくりに取り組み成果をあげて来ています。更にこの事業によって他業種との連携が強まり、医療、福祉、教育等のプロ集団としての活動も大きく期待され、女医会の発展につながるものと確信致します。

輪が輪を生み出す温かい事業

21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業

委員 神保直美

先生方は過酷な診療をこなした後も関わらず、会の中でよく話をされます。その「話」がとても楽しいのです。決してお笑いや漫才が得意な先生がいるわけではありません。自分自身の考えを淡々と語られるのですが、それぞれ一人一人の先生方の持ち味を壊すことなく、「愉快的話」にまとまっていくのです。何よりも、保育園関係の私たちを「輪」の中に「おはいんなさい」と誘い入れてくださり、「女大縄跳び」のごとく一緒に軽やかに弾み、誰かがつまづいて転んでしまっても笑えるという場を作ってくださいます。勿論、時間的にも限界があるため宿題が発生することもあります。いつの間にか園長も私も、「何でもやらせていただこう」という気持ちに変わり、参加させていただいています。

「自分の役割」に気負うことなく「今できることを精一杯やる」という前向きな姿勢を、自然な形で与えてくださった先生方には大変感謝しております。

私はもともとチラシやポスター作りに興味があり、今回当園でのミニ講演会用に自分の感性のままチラシを一枚試作してみました。「上手!すてき!」と先生方にたいへん誉めていただきました。

相手の価値や質を問うのはやさしいことですが、認め尊重することはなかなかできることではないと思います。先生方は日々様々な症例を診療される中

で、厳しい立場に立たれることも多いかと思いますが、長年地域に根ざして活躍されている理由の中には、私に対することと同じように「人を認め尊重する」という姿勢が、自然に備わっていらっしゃるからではないかと感じました。

このように、この事業はこれに関わる一人一人の温かい心と、そっと奥にある強い精神力が輪になって着実に進んでいるのです。また、女医会事務局の方がユーモアのセンスを持って委員間の橋渡しをして下さっている功績も大きいと思います。

最後に、現在女性医師の増加が目覚しい中「女性医師が働きやすい環境整備こそ、全ての女性にやさしい社会になる」と言われています。今回の会の目的は、まさに「女性のための女性による社会づくりへの寄与」ではないかと思います。当事業の提言が、子育てや子どもの病気のことを学ぶ機会の無いままに母親にならざるをえない女性に対して、限りなく優しくあって欲しいと考えます。

今後とも、女医会の先生方が、若い子育て期の女性医師の影になり日向になり支えていかれ、このような事業の積み重ねの重要性を伝承なさっていかれることを期待し、また、女医会が今後の明るい医療

に益々貢献し発展されることを心より願っております。



女性医師支援に対する取り組み

秋田支部 小笠原真澄

昨今の医師不足・医師の偏在・勤務医の過重労働は、もはや医療界の問題にとどまらず地域全体の社会問題となっている。その対応策のキーワードのひとつとして女性医師支援がクローズアップされている。

厚生労働省の平成19年度予算の概算要求をみても、種々の医師確保関係の施策の中で「出産・育児等に対応した女性医師の多様な就業の支援」に約13億円が割り当てられている。内訳は院内保育所運営事業に約12億、医師再就業支援事業に約1億であり、特に後者は女性医師のライフステージに応じた就労を支援するための女性医師バンクの設立を具体的事業としており、日本医師会が委託を受け、

Kenketsu Venilon®-I

Intravenous Immunoglobulin



血漿分画製剤 特定生物由来製品 指定医薬品 処方せん医薬品²⁾

献血 静注用人免疫グロブリン製剤



献血ベニロン-I

〈乾燥スルホ化人免疫グロブリン〉 薬価基準収載
生物学的製剤基準 注) 注意 - 医師等の処方せんにより使用すること

販売 帝人ファーマ株式会社

〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1
資料請求先: 帝人ファーマ(株) 学術情報部

製造販売 化血研 化学及血清療法研究所
〒100-8585 東京都千代田区千代田2-1-1
資料請求先: (財)化学及血清療法研究所 営業管理部

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等は製品添付文書をご参照ください。

VEN902 (MI) 0507改4 作成年月2005年7月

今年度から稼動する運びとなっている。

また、文部科学省でも大学教育改革の支援のひとつとして、地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（通称医療人GP）に平成18年度で13億の予算を割いている。8国立大学、1公立大学、2私立大学の計11大学が選定されている。指定テーマが「分野別偏在に対応した医師の養成」ということであり、小児科・産科・麻酔科・救急が分野として特定されているが、各大学の取り組みの多くは女性医師対策が主体となっているといっても過言ではない。

このように女性医師の増加に伴い、女性医師が出産・育児などそのライフステージに応じた就労をいかに確保できるか、官民をあげて取り組もうという機運が高まっている。

すでに各方面で指摘されているように、女性医師が働き続けられるための条件として、院内24時間保育、病児保育などの保育施設や多様な勤務体制の確保・整備は急務である。育児期間中の女性医師に対する職場や社会の意識改革ももちろん必要であろう。

しかし、これらの環境要因側の改善以上に、女性医師自身の意識改革として、可能な限り勤務を継続していくという意志を明確に持ち続けること、そのための努力を惜しまないことなどが求められている。

多くの女性医師が感じているように、今は確かに「追い風」の時である。与えられたチャンスを実効性のある形にできるように、粘り強く活動を続けて行きたいものである。



女医が働き続けるために ワークシェアリングの試み

JA 長野厚生連篠ノ井総合病院小児科
長谷川京子

医師不足が連日のようにマスコミに取り上げられ、女性医師の勤務の現状についても話題になることが増えてきました。女医会の先輩方々におかれましては、おそらく今よりも相当に厳しい環境にありながら、医師の仕事を続け多くの業績を残されていらっしゃると思います。現代は社会も同僚の男性医師も、私生活のパートナー達もずいぶんと意識が変わってきているのではないかと思うのですが、それ

も、学生時代を並べ、試験をともに乗り越え、医者としてのスタートを喜びあった仲間がつつぎと仕事を辞めていってしまう。ほんとうに残念なことです。そういう私も、情けないことに仕事を減らして3年になります。そんな甘い立場で女医会誌に寄稿させていただくのは恐縮ですが、十かゼロではない、もうひとつの選択があるということを紹介させていただき、ひとりでも多くの仲間が辞めていくことを思いとどまってくれることを願い投稿させていただきました。

20代後半で医学部に入学した私は学生時代に既に2人の子供を生み、研修医を終えて現在勤務している総合病院での勤務を始めた頃は3人目の妊娠5ヵ月でした。小児科常勤医は私を入れて3名で、出産数も年間900と県内で最多、夜間救急や休日救急診療も受け入れている中規模病院です。医長にしてみれば、本来ならば一番働いてもらわなくてはならない若手のポストに、30過ぎの女性、しかも妊婦で研修が終わったばかりという、どうしようもないのが来たときぞがっかりされたと思います。それなのに、とてもやさしく「家庭を大切にしてくださいね」と気遣っていただきながら、しっかりと小児科医としての基礎を教えてくださいました。ですから、私も家庭の事情を理由に甘えたくない、なるべく迷惑かけたくない、できる限りがんばろうと、さまざまな手立てでその場をしのいで、がんばって、がんばって、走り続けました。ところが、そんな生活が続けるうちに、私ばかりか、家族全体がとても疲れてきてしまったのです。さすがにこれ以上常勤での勤務は果たせないと思い、「仕事はとても好きだが、このままでは家庭との両立はできない」と訴えた私に大学の医局が提案したのが「ワークシェアリング」でした。

「外来診察だけをするいわゆるパート医ではなく、正職員として病棟や拘束も常勤と同じように勤める、ただし、2人でひとり分の枠を埋めればいいのか…」ということだけが前提で、どういう形態にするのか、どういう条件にするのか、前例はあるのかどうかも含めてお前が調べてたたき台を作れと言われ、私の「ワークシェアリング」の試みが始まりました。シェアするパートナーもなかなか決まらず、医局が候補を挙げて声をかけても断られたり、本人はやる気でも家族が反対したという理由で保留になったりで、実際にパートナーが決まってスタートするまでに2年くらいかかってしまいました。そしてこの1月でようやく3年経過したことになります。

		月	火	水	木	金	土
A	午前	外来	休み	病棟	外来	休み	病棟
	午後	外来		外来			
B	午前	休み	外来	病棟	休み	外来	病棟
	午後		外来	外来			

す。簡単にご紹介すると、ワークシェアリングの1週間の勤務は下表のようになっています（詳細については2005年春の日本小児科学会で発表させていただき、また信州大学医学部小児科学講座ホームページ <http://www.shinshu-u-shoni.jp> でも紹介してありますのでご参照ください）。

A、B 2名の医師が一日交代で勤務。水曜日は2名とも出勤とし、科の医師全員でカンファレンスや勉強会をしています。土曜日は週ごとに交代で勤務。主治医は二人連名で、連絡をとりあって治療にあたります。勤務日は交代可能で子供の看病などで休みたい時は相手に出勤の依頼をします。同僚の男性医師が学会や私用で不在の場合にも、休みとなっている女性医師が臨時に出勤することで協力しています。夜間・休日のオンコール数もワークシェアリングによって2分の1となりました。

平日にフレキシブルな2日間の休みがとれることで、時間的な余裕はもちろんですが、精神的なゆとりができました。休日の2日間は決して家事だけでなく、仕事面でもプラスになっています。勉強会の準備や頼まれた講演の原稿を書いたり、ケースカンファレンスのために他施設に出かけたり、学校医の仕事にあてたりしています。今までフルタイムの勤務の時はそれらの時間を作り出すことが難しく子供が寝静まってからやるか、断るかのどちらかでした。子供達の授業参観や家庭訪問のスケジュール、習い事の送り迎え、平日3時までの銀行窓口での所用や、自分の受診や美容院へ行くということ、また他県にいる親が病気になったときどう介護するか、これらのことは、仕事を持たない女性なら自由に計画できるのでしょうが、常勤時代は始終頭を悩ませるものでした。

先日、日本経済新聞で「6歳以下の子を持つ労働



NOVARTIS

THE ARB DIOVAN

選択的AT₁受容体ブロッカー

薬価基準収載

ディオバン錠 160mg
80mg
40mg

指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

DIOVAN バルサルタン錠

●禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意については、製品添付文書をご覧ください。

製造販売

ノバルティス ファーマ 株式会社
東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

(資料請求先)

NOVARTIS DIRECT
☎0120-003-293
受付時間: 月～金 9:00～18:00
www.diovan.jp

者は勤め先に自分が望む働き方を求める権利を認める」という英国の雇用ルールについての記事を読みました。ワークシェアリングは実際やってみてとてもメリットがあると思いますが、運用していくにあたっては細かい約束事が必要となります。それらを当事者が直接上司とやりとりしていくのは実はとてもストレスを感じることです。同僚の男性医師のほとんどは専業主婦の妻を持ち、いくら説明しても経験していないことはわかってもらえないことがあります。こちらと同じ医師という肩書きを持ちながら

甘えは許されないのではないかと躊躇してしまいます。

日本も英国のように、国全体で働く女性支援制度を、また男女に関わらず、すべての労働者がそれぞれに働きやすい条件で働けるような制度を、一日でも早く作っていただきたいと思います。そのためにも、私達もただ辞めていくのではなく、変えていくために、まず声をあげ一歩踏み出していくことが必要だと思うのです。

社団法人日本女医会第52回定時総会に向けて

神奈川支部 小関温子

平成17年7月の日本女医会神奈川県支部総会に於いて、大竹輝子支部長先生より日本女医会第52回定時総会が平成19年5月19日(土)に神奈川県支部が担当して横浜市で開催されるとの報告がありました。神奈川県で日本女医会定時総会が開催されるのは22年ぶりとの事でもあり、大竹輝子定時総会会長を中心にして、日本女医会本部のアドバイスも受けながら、支部会員が協力して実りの多い総会になるよう努力しなければならぬと思いました。

常々、神奈川県支部だけのことではありませんが、日本女医会は会員数(女性医師の5%)からみ

ても、また若い世代が少ないという年齢構成からみても改善すべき問題が少なくないと思っております。女性医師の力を伸ばし、社会に貢献していくためには、より多くの女性医師が参加して希望を出し合い、医療制度や医療環境の改善などに協力していく必要があると思います。残念ながら、女性医師でも日本女医会の存在を知らない、知っていても何をしているのか関心もないのが現状です。先輩会員の先生方がご苦労されているのは充分わかっているつもりですが、これまでの取り組みや働きかけも足りなかったのではないのでしょうか。今回の定時総会は、私達神奈川県支部としてだけではなく、日本女医会全体としても、若い世代の女性医師の理解と協力を得る大変良い機会だと思います。そして、今回の定時総会開催の準備に当たり、まだ数こそ多くはありませんが、若い世代の先生方が先輩の先生方の

社団法人日本女医会 第52回定時総会のご案内

～メインテーマ～

21世紀にはばたく女性医師をめざして

～会場～

2007年
5月18日(金)
～20日(日)

パシフィック横浜会議センター5F (定時総会、講演) 横浜市西区みなとみらい1-1-1
パンパシフィックホテル横浜 (前夜祭、懇親会、宿泊) 横浜市西区みなとみらい2-3-7

18日 18:00～ 前夜祭

19日 11:00～ 評議委員会

13:00～ 定時総会

14:30～ 講演

「女性勤務医師の働く環境整備」

前日本女医会会長 橋本葉子先生

「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」

東京女子医科大学教授 斉藤加代子先生

「国際女医会の活動について」

次期国際女医会会長 平敷淳子先生

16:00～ 特別講演

「優しさ・確かさ・美しさ

総合愛情産業としての医療をめざして」

作家・前長野県知事 田中康夫氏

18:00～ 懇親会

20日 オプションツアー (市内観光、ゴルフ)

詳細は同封のご案内をご覧ください。

連絡先: 神奈川支部 支部長 大竹輝子
横浜市南区南希望ヶ丘36-7 TEL 045-391-0601

指導を受けながら、割り当てられた役割を果たすために一生懸命取り組んで活動しております。これは大変心強く、頼もしく思っています。

定時総会は、平成19年5月10日(土)にみなとみらいのパシフィコ横浜会議センター5階で開催され、また前夜祭・懇親会・宿泊は、パンパシフィックホテル横浜で行われます。

さて、女性医師の三分の一を占める年代は結婚、出産、育児の時期に当たります。従って女性だけの問題ではありませんが、女性医師が結婚し子育てをしながら働けるような環境整備が求められております。これを踏まえて、本総会では4人の先生方の講演を予定しています。

講演1は、日本女医会前会長である橋本葉子先生に、「女性勤務医師の働く環境整備」が急務であること、また、東京女子医科大学で平成18年度に開始された、育児環境整備支援のための2つの事業、第1は文部科学省の支援を受けての「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」事業と第2は大学独自の「女性医師の再研修センター」の設立についてのあらましをお話ししていただきます。

講演2は、女性医学研究者支援室副室長齊藤加代

子教授に「保育とワークシェアによる女性研究者支援」プロジェクトが東京女子医科大学では実際にどのように進められているか、将来の方向はどうか、さらに日本女医会会員などの女性医師が今後どう関わっていくのかなどについてもお話していただけると思います。

講演3は、埼玉医科大学名誉教授で、次期国際女医会会長(平成19年7月に就任)である平敷淳子先生に国際社会における女性医師の活躍、また、会長就任の抱負をお話していただきます。

次に作家、日本新党代表、前長野県知事の田中康夫氏に「優しさ、確かさ、美しさ、総合愛情産業としての医療をめざして」と題して講演をしていただきます。知事としての立場からも医療問題、医療改革について経験のある田中氏からあるべき医療、21世紀の女性医師への期待などについてのご助言をいただきたいと思います。

以上、21世紀に羽ばたく女性医師の未来像に思いを馳せながら、日本女医会第52回定時総会開催にむけて準備の進行状況を記しました。女性医師相互の研鑽、親睦のための総会に全国から多くの女性医師が参加していただけるように願っております。

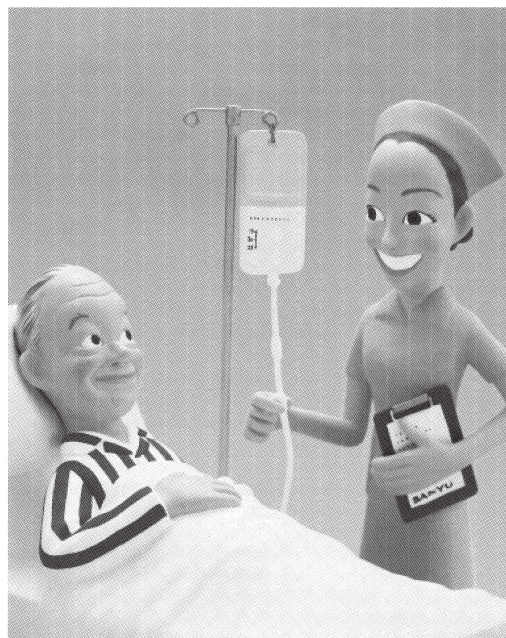
カルバペネム系抗生物質の キット製剤

カルバペネム系抗生物質製剤

チエナム® (キット製剤) (バイアル製剤)
点滴用 (キット製剤) (バイアル製剤)
Tienam® (Imipenem/Cilastatin sodium) 注射液イミペネム (略号:IPM/CS) **IPM**

指定医薬品、処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

【禁忌】、【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】等詳細については、製品添付文書をご参照ください。



BANYU
A subsidiary of Merck & Co., Inc.,
Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

製造販売元 [資料請求先]

万有製薬株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

®Trademark of Merck & Co., Inc. Whitehouse Station, N. J., U.S.A. 2006年3月作成 03-07 TEN-06-J-A10-J

国際女医会 ● M I W A
N E W S R E L E A S E



国際女医会 (MWIA) 本部から送られてくるいろいろニュースをここでお知らせします。

ナショナルコーディネーター 内潟安子

第27回国際女医会議 (ガーナ) のお知らせ

●新しいホームページです。どうぞご覧下さい。

<http://www.mwiainghana.org>

●第27回国際女医会議のご案内

【期間】 2007年7月31日～8月4日

【場所】 ガーナ・アクラ
「La-Palm Royal Beach Hotel」内

【登録費】 2007年5月31日までに登録の場合
会員 250米ドル/非会員 300米ドル

【ホテル】 学会事務局にて手配予定。

【備考】 渡航に際し、予防接種、査証申請が必要
です。

【旅費】 エコノミー利用の場合、7月29日日本
発、8月6日日本着で、おおよそ
¥496,850位になる予定です。

【旅行手配】 (株)インタープラン・コーポレーション
〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町
2-1 渋谷ホームズ 401
電話：03-5489-4910
FAX：03-3461-8181
E-mail：yoko@inter-plan.co.jp
担当：笠原葉子

中国 出身のマーガレットチャン女史が2006年11月に世界保健機構 (WHO) のトップである事務総長に選出されました。日本から尾身先生が立候補されていたこともあり、皆さんも記憶に新しいことと思います。

国際女医会からもお祝いのニュースリリースが届きましたが、日本女医会からもお祝いの手紙を、スイスのチャン女史に送りました。

チャン女史は鳥インフルエンザやSARS感染に対して真正面から闘ってこられた方です。

女史が指名されたときの言葉は、女性の健康を考えている我々にも、心強くさせるものがあります。

タイ 国女医会から第4回中央アジア地区会議の案内が来ました (2007年1月4日付け)。

●国際女医会ならびにタイ国女医会による第4回中央アジア地区会議

【会期】 2007年6月14日～6月16日

【場所】 TAWANA BANGKOK Hotel (バンコック)
Suriwongs Road Bangkok, Thailand

【テーマ】 Women in Medicine : Contribution to Society

特に健康問題、女性と子どもがおかれている社会的状況に絞っての意見交換

Official Congress Organizers :

The Thai Medical Women's Association Under the Royal Patronage Her Majesty the Queen
980/2 Sukhumwit Road, Klong Toey, Bangkok 10110

Tel : +66 2 3910 400

Telefax : +662 391 408

Website : www.tmwa.org

Secretariat General : Dr. Pattariya Jarutat

Secretariat General Office :

Sirindhorn National Medical Rehabilitation Center (Soi Bumrajnaradoon, Tiwanon Road, Nondhaburi, Thailand 11000)

Tel. and Fax. 66-2-591-4945

e-mail address pattriya@health.moph.go.th

Important Dates

Submission of Abstracts (deadline)

15th March 2007

Registration deadline

15th April 2007

Language : English

* シシリントン王女の臨席を得て、開会式が行われるとのことです。

* 登録用紙などはウェブサイトにあります。

「女性医師の働く環境整備のための国会内勉強会」に出席して

広報部 大坪公子

2006年12月6日(水)17:00~18:30、衆議院第一議員会館第三会議室に於いて、「女性医師の働く環境整備のための国会内勉強会」が開催されました。

参加者は、〈日本女医会〉より、小田泰子会長、鹿田儀子副会長、山崎トヨ副会長、大坪公子理事、〈東京女子医大〉より橋本葉子名誉教授、大沢真木子教授、斉藤加代子教授、〈保団連〉より坂井八重子女性部長以下4名、〈厚生労働省〉より、医政局医事課から2名、医政局看護課から2名、〈国会議員〉は、阿部俊子衆議院議員、木原稔衆議院議員、小宮山洋子衆議院議員、高橋千鶴子衆議院議員、阿部知子衆議院議員、富岡勉衆議院議員。

橋本葉子前女医会会長より、医師国家試験合格者のうち女性の占める割合が、30%以上を占める現在、女性医師が生涯にわたり医師としての仕事を続けていけるよう支援することが必要である。国からも具体的な方策を示し予算もつけて支援して欲しい。医師不足で悩む地域が多いので、女性医師の働きやすい環境整備をしてほしいとの挨拶がありました。

厚労省担当事務官より、平成19年度予算概算要求(医師確保関係予算)の中の「院内保育所運営事業」と「医師再就業支援事業」について説明がなされました。

院内保育所運営事業の平成19年度予算額は1,228百万円であります。趣旨は子供を持つ看護職員・女性医師をはじめとする医療従事者の離職防止及び再就業を促進するためと記載され、はじめて女性医師の問題としてとりあげられました。また延長保育、24時間保育の実施を誘導していくことと、病児等保育を実施するための看護師の配置に必要な経費に対する補助を行うと書かれています。補助額としては十分なものではないと思われます。

医師再就業支援事業としては、19年度は、95,913千円となっています。女性医師は、出産や育児により労働時間が短くなる傾向があり、パートタイム勤務など女性医師がライフステージに応じて働くことが出来る柔軟な勤務形態の促進を図り、もって医師確保対策に資する事とする。となっています。

事業内容は、①女性医師バンク(仮称)事業費78,407千円であり、日本医師会との提携で進めている事業です。専任コンサルタントによるきめ細やかな

相談業務を展開します。となっていますがこの事業の実績はたしてどれだけ上がるのか心配なところであります。

②再就業講習会経費として、17,506千円です。出産等により医療機関を退職した後、再就業する場合、医療の第一線での技能・知識を習得できるよう研修を行うものです。

国は医師確保対策としていろいろの事業を行っていますが、女性医師関連のものは以上です。

次に、大沢真木子教授より、小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究よりの報告、斉藤加代子教授よりの東京女子医大に於ける女性医学研究者支援事業についての報告がありました。病児保育室の開設やワークシェアとフレックス制で女性医師が医学研究をしていくことやカウンセリング制度を導入してサポートしていくことなど、新しい取り組みがみられました。保育施設の現状として名古屋大学鶴舞地区の報告もありました。

国会議員の方々も女性医師の問題に強い関心を示され活発な討論がなされ有益な国会内勉強会でありました。

「少子化と男女共同参画に関する社会環境の国内分析等について聞く会」を傍聴して

渉外部 藤川眞理子

平成18年12月4日、内閣府講堂で、男女共同参画局主催の上記の会が開催されました。

報告書概要

① OECD諸国では、女性労働力の高い国ほど、1970年には出生率が低かったが、2000年には高い傾向がみられ、国内でも女性の有業率の高い都道府県の方が出生率が高い傾向にあり、女性の労働力率と出生率は、一方が上がれば他方も上がる固定的な関係ではなく、両者に関係する社会環境(施策、制度、価値観等)に因る。

②日本は1970年から2000年の女性労働力率の上昇幅が24ヶ国中、最少。

③この20年間に女性労働力率を上昇させながら出生率も回復してきている国の社会環境には、男性を含めた働き方の見直しや保育所整備等の両立支援、固定的性別役割分担意識の解消や男性の家事・育児参加、雇用機会の均等などが進んでいる特徴がある。男女共同参画に関する施策推進は少子化対策

にも資する。

1990年の国連ナイロビ将来戦略勧告を受けて、平成15年日本政府は「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待する。」目標を決め、国や地方公共団体が実施する責務を有する「積極的改善措置 (positive action)」の一つとしましたが、政治・行政・司法での女性参画拡大は緩やかで、平成18年度に女性検察官が初めて総数の1割に達し(253名)、行政管理職の女性比率では1人もいない自治体が524もあります(管理職比率が10%を超える自治体もあり地域格差が存在)。医師国家試験合格者の女性の割合が平成18年では32.7%であり、資格試験があるものは順調に増加していると紹介されました(しかし、医学部の女性教授の割合を考えただけでも、女性医師数の増加のみを単純に喜ぶのは早計でしょう)。管理的職業従事者に占める女性の割合は、2005年では、フィンランド42.5%、イギリス34.5%、ドイツ37.3%、韓国7.8%、日本10.1%。日本は厳然としてmale dominantの社会であると痛感させられます。

専門調査会は、子育て世代の両立支援を契機とするすべての人を対象とした仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)施策の推進を提案しています。

日本女医会としても、女性医師の仕事と生活の両立(労働時間、柔軟な働き方)、子育て支援の充実、雇用機会の均等(特に女性管理職の増加)等に向けて社会環境整備を推進する方策について積極的に提言・発言していく必要があると感じました。

宮城県女医会 市民公開講演会

「悩まないで！尿のトラブル解決します」

宮城支部 樋渡奈奈子

宮城県女医会では、平成13年、千葉県知事・堂本暎子氏をお迎えして、「女性の健康、女性の医学」をテーマに市民公開講演会を日本女医会と共催して以来、女性の健康に関する公開講演会を開催し、市民の健康啓発活動に取り組んでおります。

今年度も日本女医会・宮城県女医会主催による第4回市民公開講演会を「悩まないで！尿のトラブル解決します」と題し、浪間孝重先生をお迎えして平成18年11月11日午後2時より仙台市医師会館に

て開催いたしました。尚、本講演会は宮城県・仙台市・宮城県医師会・仙台市医師会・リプロネットみやぎの後援を頂いております。

宮城県女医会会長山本蒔子より、「女性健康相談室」を含めた当女医会活動並びに最近話題となっている女性の排尿障害について女性医師の立場より泌尿器科医との連携を含めて取り組みたい旨の挨拶があり、山本会長を座長に講演に移りました。

講師の浪間孝重先生は、東北労災病院第2泌尿器科部長で平成17年5月に女性特有の泌尿器系疾患治療の啓発を目的に設立された「宮城フィーメル・ウロロジー・ネットワーク」の副代表を務められておられ、神経泌尿器科がご専門です。先生は私共女性が直面し、悩んでいるにも関わらず、なかなか治療に結びついていない排尿障害について、疾患の定義から治療までをユーモアを交えながら噛み砕いてご説明されました。

尿失禁とは社会的・衛生的に問題となる不随に尿がもれるという愁訴であり、女性の場合大きくは切迫性【強い尿意に襲われ我慢できずに漏れる】・腹圧性【咳・くしゃみなど腹圧が上昇して起こる】・混合性に大別され、腹圧性症状のある混合性尿失禁を含めると約8割が腹圧性であり、治療法は骨盤底筋体操や手術療法【コラーゲン注入やTVT手術：Tension-free Vaginal Tape】があるそうです。また、切迫性の場合には過活動膀胱に起因することが多く、治療法として薬物療法【抗コリン剤が主】・電気刺激・排尿訓練等があるそうです。また、排尿記録【排尿日誌】と問診により、尿失禁の90%が診断可能とのことでした。

なかでも印象深かったのは人生の目的の3段階1：生きのびること、2：社会生活を営むこと、3：楽しむことというコンピューターシステム開発者であるリーナス・トパルス氏の言葉を引用され、先生ご自身の人生観及び尿失禁の治療における理念は、QOL【Quality Of Life】をあげる最先端の医療理念であり、おもらしを治すイコール楽しく豊かな人生を送ることと纏められたことです。

また、性器脱もしくは骨盤臓器脱についても言及され普段口ににくい用語をPOPと説明され、参考となりました。当日は風雨の強い悪天候の日にも関わらず男性を含めた中・高年の方が多数(約80名)参加され、中にはご自身の排尿日誌を持参され質問されるなど講演後に熱心な質疑応答がなされ、実りある講演会となりました。



健やか親子21 関連事業 「十代の性と健康」指導者養成講座 第10回



2001年より日本女医会の社会貢献事業として続いている、恒例の「十代の性と健康」指導者養成講座です。今回は10回目ですが、これまでの9回の参加者はのべ1300名余、じっさいに健康相談や診療に役立てたり、学校の性の健康教育講師として呼ばれている先生方が多くおられます。そして、わが日本女医会がこのような活動をはじめた2001年をピークに、十代の妊娠中絶や性感染症が少しずつ減少しているのは事実です。今回は、各地で啓発にとりくんで効果があがっている地域の報告を中心に、子どもたちの性の健康にとって何が大切なのかを、もう一度考えてみたいと思います。ふるってご参加ください。
(対馬ルリ子)

— 減りつつある中絶と性感染症～誰が何をしたか？ —

主催：社団法人日本女医会 協力：性と健康を考える女性専門家の会 後援：日本医師会、東京都医師会
日時：2007年3月25日（日）10時～16時半
場所：ルークホール（東京都新宿区四谷1-7 持田製薬株式会社本社ビル）
会費：2,000円（資料代込み）

＜プログラム＞

- ・挨拶(10:00～10:10)..... 日本女医会会長 小田泰子
- ・基調講演(10:15～12:00)..... 座長 前日本女医会副会長 加藤竺子
 - 1)「セクシャルヘルスのめざすもの」..... 日本家族計画協会・会長/自治医科大学・名誉教授/群馬大学・名誉教授 松本清一氏
 - 2)「中高生の性教育～長年の経験から～」..... 性と健康を考える女性専門家の会・会長 堀口雅子氏
- 昼休み(12:00～13:00)
- ・シンポジウム(13:00～16:00)..... 座長 堀口雅子氏
「十代の性の健康を守る試みとその効果～各地からの報告～」
 - 1. 行政が中心となって推進する性教育（釧路市）..... 釧路市こども保健部健康推進課・課長 小林玲子氏
 - 2. 婦人科クリニックにおける思春期の現状と取り組み（青森県）
..... 弘前レディースクリニックはすお・院長/駅前公園女性クリニック・院長 蓮尾 豊氏
 - 3. 性教育CD-ROMを利用した学校・地域の連携（山形県）..... 東京医療保健大学・講師 渡會睦子氏
 - 4. 十代の妊娠支援マニュアルを作って（埼玉県）
..... 埼玉県立大学保健医療福祉学部 看護学科 母性看護学/助産学教授 鈴木幸子氏
- ・討論(16:00～16:30)
- ・閉会の挨拶..... 日本女医会副会長 鹿田儀子
司会 日本女医会理事 対馬ルリ子

ランチョンセミナーも開催致します（先着40名 昼食付き無料・要予約）
「体型からみた現代ティーンの成長と下着」
 （株）ワコール人間科学研究所基礎研究担当 研究員 坂本晶子氏

会員動静 (2006年12月20日現在)

新卒入会 井原 玲 大城 みわ子 (昭50年卒) 村上 信子 (昭43年卒) 町田 祐子 (昭57年卒) 小野寺佳奈 (平13年卒) 福田 二代 (昭46年卒) 石川 洋子 (昭44年卒) 楮本 智子 (昭60年卒) 野呂瀬一美 (昭52年卒) 福下 公子 (昭49年卒) 磯田 麻里 (平7年卒) 後藤 茂子 (昭26年卒) 田村 久子 (昭26年卒) 堀内 昭枝 (昭49年卒) 村山 洋子 (昭63年卒)	都 下 西 青 森 青 森 秋 田 秋 田 岩 手 埼 玉 千 葉 洪 谷 神 奈 川 神 奈 川 神 奈 川 山 梨 大 阪 第10	退 会 故 物 大村 素子 (昭60年卒) 19名 大谷 節子 (昭22年卒) 大畑 信子 (昭23年卒) 加藤七五三子 (昭15年卒) 杉浦 愛子 (昭17年卒) 花輪とめじ (昭8年卒) 中村実枝子 (昭11年卒) 野村 きそ (昭2年卒) 野村 澄江 (昭6年卒) 武岡 秀子 (昭11年卒) 池堂ハルミ (昭13年卒)	兵 庫 群 馬 板 橋 神 奈 川 神 奈 川 山 梨 愛 知 愛 知 広 島 佐 賀 鹿 児 島
---	--	--	---

支 部 だ よ り

京都支部のつどい

京都支部 石川知子

静寂な吉田山の中腹に、名匠により東伏見宮別邸として建造された吉田山荘で、3月5日（日）出席者20名で京都支部のつどいを開催致しました。別邸の名園の中に北山杉をもって格調高い造形美を見せる数寄屋風の離れで、アンチエイジングでご高名な吉川敏一教授に「アンチエイジングの理論と実践」について講演して頂きました。“誰もがいくつになってもはつらつと元気よく暮らしたいと願っています。「アンチエイジング」とは気が付かないうちに体の内側に進行する老化を予防し、健康の増進を図ろうとするものです。”との話から始まり、今売れっ子のマラソンランナー、ボクシング選手との話も交えて、時の経つのも忘れてしまうくらい沢山の質問がでるほどのお話でした。

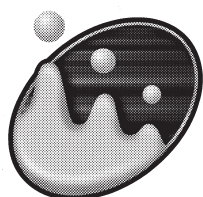
その後の懇話会は裏菊紋の格式高さが偲ばれる母屋の、和洋の風情が溶け合う部屋で、有名な女将から建物の説明を興味深く聞きました。その後、伝統

の葉皿料理を頂きながら南米の多彩なリズムのロス・アイレスの二人組の珍しい楽器を使った音楽を楽しみました。土産の「ちりめん山椒」に福引きの吉田山荘オリジナルのスタンドグラスの箸置きなどを手にして、次回3月4日（日）の再会を楽しみにお別れしました。

瀬音聞く 哲学の道 寒明くる 池本 守



吉川敏一教授をかこんで。出席者たちと



HMG-CoA還元酵素阻害剤

リバロ錠 1mg 2mg

指定医薬品、処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
(ビタバスタチンカルシウム製剤) 薬価基準収載

●効能・効果、用法・用量、禁忌・使用上の注意等は添付文書をご参照ください。



製造販売元
興和株式会社
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

販売元
興和創薬株式会社
東京都中央区築地1-12-6

提携
日産化学工業株式会社



書評



この本は、小田眼科医院院長として、小田泰子先生が、毎月B5判1枚のニュースレターをお書きになり、患者さん達に手渡していたものをまとめられたものです。1990年（平成2年）の正月の第1号から2005年（平成18年）の9月の第200号までのニュースレターで実に読みごたえのある立派な書物となっています。

実に16年9ヶ月におよぶこの作品群は、その時々で小田先生が何に興味をもち世の中をどのように見て過ごされたかがよくわかり、とても共感もたれます。

特にすばらしいと思うのは、いろいろな事柄を文化、歴史的に幅広く考察されていることです。第99号（1998年4月）「文化系の博士号をもらいました」で先生は、「人痘法」（天然痘にかかっている人の膿を植える方法）の論文を書かれたことを書いています。このようなテーマは医学と歴史と文化との合間にあるようなもので、医学部では論文のテーマとして認めてもらうのは困難なものです。しかし深く掘り下げ研究されて「国際文化研究科」の博士号取得第1号となられたのです。第131号（2000年12月）「ノーベルの発見」、第133号（2001年3月）「エックス線の発見」、第143号（2001年12月）「電灯」、第176号（2004年9月）「電話」などおもしろいものがたくさんあります。

『医心伝信』 小田泰子 著

眼科に関係することで特におもしろかったのは、第130号（2000年11月）「近視になりたい」です。筆者は近視で中学時代からメガネが必要でした。近視は遠くが見えなくて「悪い目」と思っていました。しかし、先生はメガネをかければ遠くは見えるので悪い目ではありません。近くはいつになってもメガネなしで見えるので、本を読んだり、近くの仕事をするのには非常に便利な目です。と言っておられます。先生は遠視で若いころは本当によく見えたそうです。40歳を過ぎると老視（老眼）がはじまり、現在は遠くを見るのにも本を読むのにもメガネが離せないそうです。それで、なれるものなら「近視になりたい」と考えているそうです。近視については第101号（1998年6月）にも「近視は×印か」で近視は生活態度が悪かったり、親の言う事を聞かなかったりした結果の×印ではありません。近視になるかならないかは、生れる前からすでに決まっていると考えられます。と書かれてあり、筆者もほっと安心出来ました。

眼科的なことは専門家として、老人性白内障、老眼、緑内障、涙、メガネと眼科医の役割、色覚異常、コンタクトレンズ、アレルギー性結膜炎、等々前半部分に詳しく書かれています。さすがに見識高く患者さんや一般の人達に役立つ内容です。しかし大部分はもっと内容が幅広く文化、歴史的なものとなっており、簡単に読みとばすというわけにはいきませんが、読み終えると充実感があります。この本が欲しいという人は、日本女医会事務局までお申し込み下さい。（理事 大坪公子）

私の大学



藤田保健衛生大学

愛知支部 鈴木由美子

学校法人藤田学園は、昭和39年9月、故・医学博士・藤田啓介総長によって設立され、今年で創立42周年となり、教育機関、研究機関、教育病院も充実しています。そして現在は「創立50周年記念事業」に向けて理事長、学長、教授陣、各学部と同窓会を中心に21世紀型総合医療センター及び藤田学園生涯教育研修センターの着工が始まっています。

私事でございますが、医師を目指すようになった

契機は急性虫垂炎で夜間にもかかわらず優しい外科医に助けていただいたこと、そして身内に医師がいたという理由です。入学時は100人中29人が女性でしたが中・高と女子校に通っていた為、教室に男性がいる環境に慣れるまで3～4年近くかかりました。そして当時は森英恵デザインのシャネルスーツの制服（ネクタイは緑色です）、全校生徒統一の緑色のジャージがあり、女子大生であるのに好きな洋服を着ることができませんでした。また5、6年生時の毎週土曜日の昼に行われるテストの結果や各種試験の順位も貼り出され、一喜一憂の日々でした。これは平成17年4月に施行された個人情報保護法が関係しているのか現在はなくなったようです。し



かし今振り返ってみますと、この厳しさは当時教育現場にみえた医師たちの愛の鞭だと思いたいへん感謝しております。あの制度がなければ緊張感のない学生生活となり、間違いなく私は医師になることができなかつたように思います。制服に関しても『お洒落に気を遣う時間があつたら学生時代くらい勉強やスポーツに励みなさい』という意図だったのかな？ と思います。同じ大学出身者で、あの厳しさを経験した医師たちとの会話はとても弾みます。しかし不思議なくらい誰一人として文句を言う医師はいません。

卒業後は臨床医ではなく基礎医学（神経生理学）を勉強したいと思い、生理学の大学院、そして現在

日本女医会・理事の藤田学園坂文種報徳會病院・病院長の山本纈子先生の下で週一日ほど神経内科を勉強させていただき、将来は生理学教室に残り基礎医学に専念をする予定でした。ところが大学院に入学をして間もなく父の癌が見つかり、急遽臨床医へと転換せざるをえない状況になりました。180度変わった人生設計と日常生活になりました。総合病院に勤務をさせて頂き、その後地元で内科クリニックを開業しております。

現在は地元医師会でも藤田学園出身者が増え、母校出身者の会もあります。卒業後は大学に足を運ぶ機会もほとんどなくなりましたが、お世話になりました母校の今後の発展に期待をしています。

本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕
武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤
指定医薬品 処方せん医薬品[※] **薬価基準収載**

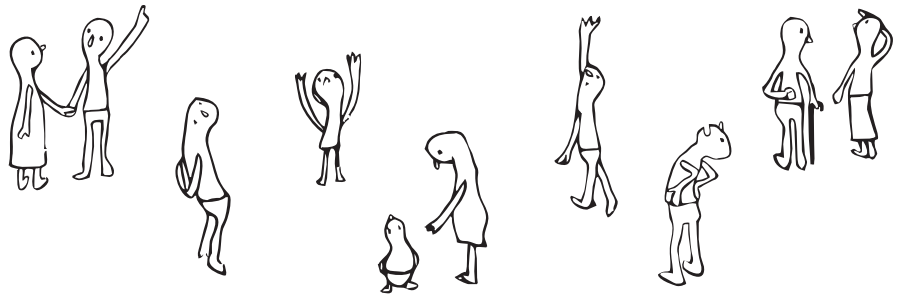
ブロプレス[®]錠^{2.4/8.12}
(一般名: カンデサルタン シレキセチル錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

B BIOLOGICAL

(0601)

未来を拓く

ひら



本当に求められている「こと」や「もの」。
医療のニーズを正しく把握し、
バイオ技術の追究を通じて、夢を現実にしていく。
キリンは、新たな医療価値の創造に
全力で取り組んでいます。

(((理事会議事録)))

日時：平成18年9月2日(土) 午後3時00分

場所：日本女医会会議室

出席者：小田、鹿田、角田、山崎(ト)、荒木、内潟、大坪、大塚、古賀、坂本、澁谷、高原、田中、塚田、津田、濱田、村田、森川、山本(續)、吉馴、川田、松井(以上22名)

欠席者：対馬、西嶋、藤川、山崎(康)、山本(蒔) (以上5名)

庶務報告
会計報告
各部報告

議題

1. 会員名簿の件 (資料1)
2. ブロック別懇談会の件
3. その他 (資料2)

7月理事会議事録を承認

小田会長挨拶

報告事項

1. 庶務報告 大塚理事
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 森川理事
平成18年7月分収支別紙どおり報告、承認される。
3. 各部報告
 - 【渉外部】 荒木理事
他団体との関係等、今までの経緯を踏まえて今後検討する予定である。
 - 【広報部】 大坪理事
日本女医会第188号の原稿を9月20日締切で募集中。7月29日開催の日本医師会「第2回男女共同参画フォーラム」に関する記事も掲載予定
 - 【学術部】 山本(續)理事
学術講演会は毎回出席者が少ないので開催方法を部内で検討中
 - 【ナショナルコーディネーター】
国際女医会からの「ニュースレター」を会誌に掲載予定。
 - 【鹿田副会長より】
7月理事会で決定した「定款改正委員」に橋本前会長に委員として是非参加して頂きたい旨の意見が出され、全員賛成で承認。

協議事項

1. 会員名簿の件
澁谷理事より、資料に基づき現在までの広告申し込み状況の説明。

2. ブロック別懇談会の件

古賀理事より12月2日(土曜日)に宮城支部で「公開講演会」を開催予定。

講演会終了後にブロック別懇談会開催し、非日本女医会会員へ勧誘する事について提案があり、全員賛成で承認。庶務部から第2回、第3回の開催協力の要請があった。開催、進行の方法を今後検討する必要があるとの意見が出た。

- ・ブロック別懇談会に関連し様々な意見が出され活発に議論した。
- ・重要な課題であるので、懸案事項に決定。

3. その他

・大坪理事

(1)日本医師会女性医師バンクについて報告

将来研修終了後に女性医師は全員登録するにしたい。日本医師会は日本女医会との関係を大事にしたいようである。

(2)長寿社会福祉委員会より第1回、第2回「『たんの吸引』を安全に行うための講習会」の説明。また今年度第3回目と来年度の開催協力の要請があった。

- ・森川理事：子育て支援委員会の活動報告
- ・澁谷理事：過去10年総会費用一覧(資料2)と役員慶弔費の説明
- ・事業部：冊子「いきいき」へ執筆者の顔写真掲載可能か問い合わせる。
- ・「大学連絡係」について、今後事業部津田理事が担当する。
- ・川田監事：7月29日「日本医師会第2回男女共同参画フォーラム」の報告
- ・吉馴理事：日本医師会に女性理事を入れるべきであるとの意見
- ・津田理事：支部の存在、働きを定款に明記すべきとの意見。
- ・坂本理事より

○女医会として、日本医師会へ「女性医師の働きやすい環境づくり」について提言してはどうかとの意見がありました承された。

○日本医師会への提言、支部の規約、女性医師バンクについては、事業部で検討する。

・学術講演会の開催数を検討するが、荒木理事より現状を正確に把握してから検討すべきとの意見が出された。次回理事会へ継続審議。

以上

日時：平成18年10月28日(土) 午後3時00分

場所：日本女医会会議室

出席者：小田、鹿田、角田、山崎(ト)、大坪、大塚、古賀、坂本、澁谷、高原、田中、塚田、対馬、津田、濱田、藤川、村田、森川、山崎(康)、山本(蒔)、山本(續)、吉馴、川田、松井(以上24名)

欠席者：荒木、内潟、西嶋(以上3名)

庶務報告
会計報告
各部報告

議題

1. 第52回定時総会の件
2. 公開講演会の件
3. 定款改正(案)
4. 名簿の件
5. 学術講演会の件
6. ブロック別懇談会の件
7. 事業部からの提案
8. 国際女医会議・旅行業者の件
9. その他

【会長挨拶】

女性の力を活用するために他の女性団体との協力が必要、日医では「女子学生キャリア支援事業」を開始予定、仙台医療センターでは24時間保育事業を開始予定と山が動きつつあるのを感じる。

9月議事録訂正：議事録3ページ「女医会として、日本医師会へ『女性医師の働きやすい環境づくり』について提言してはどうかとの意見がありました承された。また日本医師会への提言、支部の規約、女性医師バンクについては、事業部で検討することとなった。」に変更

報告事項

1. 庶務報告 古賀理事
【松井監事より】
総理府主催「男女共同参画推進会議・全体会議」出席の報告
【大坪理事より】
・日中医学交流センター主催「15周年記念パーティ」出席の報告
・長寿社会福祉委員会主催「たんの吸引を安全に行うための講習会、第一回・第二回」の報告。第三回は2月4日(日)に練馬区役所で開催予定
- ・10月13日広報部会・校正会議開催
2. 会計報告 高原理事
平成18年8・9月分収支別紙どおり報告、承認される。

森川理事：コピー機（パソコン2台付）を購入、百周年記念基金より支払った。

協議事項

1. 第52回定時総会の件

小田会長：第52回定時総会へ日本医師会会長出席について、承認

2. 公開講演会の件

山本（蒔）理事：宮城県女医会の公開講演会「悩まないで！尿のトラブル解決します」開催。日本女医会助成金事業の承認と、開催日の変更（11月11日）、承認

3. 定款改正（案）

塚田理事：「定款改正委員会」（案）が提出。各自で内容を検討し、来月理事会で再審議する

4. 名簿の件

澁谷理事：広告協力企業と印刷会社の説明。表紙の色は広告主の希望もありピンクに決定、最低価格落札業者に発注する。

5. 学術講演会の件

山本（績）理事：日時平成19年2月24日、会場京王プラザホテル。講師齋藤加代子先生。テーマ「女性医師の働きやすい環境整備への取り組み—女子医大の『保育とワークシェアによる女性医学研究者支援』プロジェクト—」。女性医学研究者に限らず、若い女性医師、医学生、研修医に広報し、出席者を募るため、早急に講演の内容の分かりやすいパンフレットを学術部で作成し、大学連絡係に広報の協力を求めたい。テーマをもう少し分かりやすくするようにとの発言があり、検討して開催する。

6. ブロック別懇談会の件

古賀理事：宮城支部の公開講演会終了後に行う予定であったが、現在、開催の見通しがつかない。今後、他支部に協力を要請する。

7. 事業部からの提案（資料4）

(1)「医療における男女共同参画 - 女性医師の働きやすい環境整備づくり」を日本女医会のテーマとして講演会等で大いに取り組んでどうかと坂本理事より説明、承認。

(2)女性医師人材バンクについて

・事業部での検討を仮定すると愛知支部をモデルにして頂けないかと、坂本理事より説明。

・澁谷理事、山本（績）理事：愛知支部と愛知県、愛知県医師会との関わりについて現状の説明があり、現時点では日本女医会主体ですすめることは困難であること、今後の構築のために検討中であることを報告。今後を見据えて経過報告という形をとらせてほしい。

・坂本理事：日本女医会が独自でバンクを始めるために事業部として検討するとしても何か取っ掛かりがなければ先には進まないのではないかと。

・鹿田副会長：女性医師バンクについて日本女医会が共通の対処法を持つべきである。

・坂本理事：愛知支部の状況は参考として理事会そして会員へ動向を知らせてほしい。

・日本女医会単独ですべきか、日本医師会に協力すべきかの質問に対し「急な変化はないので、医師会からのアプローチは拒否せず情報を得るよう」と小田会長が回答。

・大坪理事：日本医師会では①事業主、病院長への教育②女性医師の再発掘を柱にしている。だが執行部は男性ばかりであるため女性医師の意見は反映されにくい。

(3)日本医師会との連携、提言について日本医師会への提言については会長、副会長に意見をもらいながら、事業部で原案を作成すると、坂本理事より説明。承認

(4)支部定款（案）

津田理事：支部の状況、支部の位置づけ、支部を各県に置く場合会員の少ない支部はどうすればよいかなどの問題があり、大前提の検討が必要である。そのための「たたき台」として支部定款（案）を作成した、と説明。

支部細則は定款改正委員会で検討し、支部の在り方に関しては事業部で検討する。

8. 国際女医会議・旅行業者の件

旅行業者は内湯理事に一任で了承。

9. その他

(1)村田理事：「いきいき」執筆：来月1月号「クラミジア」吉馴理事、2月号「もやもや病」山本（績）理事。了承

(2)対馬理事：「10代の性と健康指導者養成講座」：講師の予定も聞き、3月25日（日曜日）に開催の方向で検討する。了承

(3)鹿田副会長：理事会をより潤滑に進めるため、忌憚のない意見を頂きたい。

今後は理事会開催日3日前までに報告事項・審議事項を各部でまとめて事務局へ文書で送ってほしい。理事会終了後に時間のある方まで「話しあいの場」を持ってほしい。了承

(4)忘年会：12月理事会終了後に開催で了承

(5)理事会終了後、日本医師会作成のテレビCMビデオと長寿社会福祉委員会製作たんの吸引を安全に行うため

のDVDを放映した。以上

日時：平成18年11月25日（土）午後3時00分

場所：（社）日本女医会会議室

出席者：小田、鹿田、角田、山崎（ト）内湯、大坪、古賀、澁谷、田中、塚田、対馬、津田、濱田、村田、森川、山崎（康）、山本（蒔）、吉馴、松井（以上19名）

欠席者：荒木、大塚、坂本、高原、西嶋、藤川、山本（績）、川田（以上8名）

庶務報告

会計報告

各部報告

議題

1. 定款改正の件（施行規則、支部細則も含む）

2. 各部責任者の件

3. 事業部より（資料1）

・中長期計画の作成検討について

・支部会長、会員に対するアンケートについて（案）

4. 各賞選考委員（案）（資料2）

5. 次年度理事会開催日の（資料3）

6. 「10代の性と健康・指導者養成講座」プログラム（案）（資料4）

7. その他

・職員賞与について

【小田会長挨拶】

・著書「医心伝信」配布

・アメリカ中間選挙について：日本女医会は公益法人であるので政治活動はできないが、生活の全ては政治により決められる。政治に無関心であってはいけない。宮城県医師会でも女性医師バンクを始めることになった。院内保育があるのは大阪で26%、長野で28%である。困っている女性医師が自分で声を上げなければならない。公立の保育所を女性医師が利用するのは現状では困難である。

・WHOの事務局長に中国のDr. Margaret Chanが選出された。内湯理事を通じお祝いのメールを送ってもらった。

10月理事会議事録を承認

報告事項

1. 庶務報告

澁谷理事

(1)山本（蒔）理事

11月11日開催「日本女医会、宮城県女医会主催、公開講演会」の報告

(2)森川理事

子育て支援委員会「21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言」事業、現在までの活動報告と今年度の事業予定の発表

(3)大坪理事

- ・日本医師会「第4回男女共同参画委員会」出席の報告及び日本医師会医師再就業支援事業（女性医師バンク事業）について
- ・日本女医会誌広告募集へ役員の協力を強く要請
- ・長寿社会福祉委員会、来年2月4日練馬区役所において「第3回たんの吸引講習会」を開催。役員の出席を要請

(4)内湯理事

「平成18年度学術講演会」チラシについて。タイトルを「頑張れ女性医師」にし、専門家に作成を依頼する。次回理事会までに完成予定。

- 【ナショナルコーディネータ報告】WHOの事務局長に中国のDr. Margaret Chan が選出された旨の報告
- 2. 会計報告 濱田理事
平成18年10月分収支別紙どおり報告、承認される。

協議事項

1. 定款改正の件(施行規則、支部細則も

含む)塚田理事/古賀理事

先月理事会で配布された「定款(案)」に対する意見を含め、施行規則、先月事業部より提出された支部細則も次回定款改正委員会(1月理事会後)で検討する。

2. 各部責任者の件 鹿田副会長
各部のまとめ役として、学術部=内湯理事、庶務部=古賀理事、広報部=大坪理事、会計部=森川理事、事業部=津田理事/坂本理事、渉外部=山本(蒔)理事で決定

3. 事業部より 津田理事
・中長期計画の作成検討について

今後の活動方針を決定するため、現在までの日本女医会の事業内容を知り、また会員の意向も知る必要があると考え、そのためのデータベースづくりをする。

- ・支部会長、会員に対するアンケートについて(案)
- 「中長期計画」、「日本医師会への提言」に反映した内容で再検討する。役員各自の意見を事務局まで提出すること。
- アンケート実施の趣旨を明記し理解を得る。また日本女医会誌に刷り込むなど経費がかからず確実に送る方法、ま

た返信方法を事業部で再検討し、次回理事会に諮る。

4. 各賞選考委員(案) 小田会長(案) 通りで決定
5. 次年度理事会開催日の件鹿田副会長
・4/21、5/19(神奈川総会)、6/23、7/21、9/8、10/20、11/17、12/15、1/26、2/23、3/22、4/26、5/17(東京総会)として暫定的に決定
・理事会開催日に意見、希望のある場合は「審議事項」として文章にて提出のこと。
6. 「十代の性と健康・指導者養成講座」プログラム(案) 対馬理事
・会場は持田製薬ルークホールを無料借用ができる
・一講演30分にして、終了時間を厳守する
・会費を2,000円徴収するとして、予算案を次回理事会に提出する
・ランチョンセミナーにするか否かも含め講師の人選も対馬理事一任で決定
7. その他
・職員賞与について
冬期賞与として2.6ヶ月支給



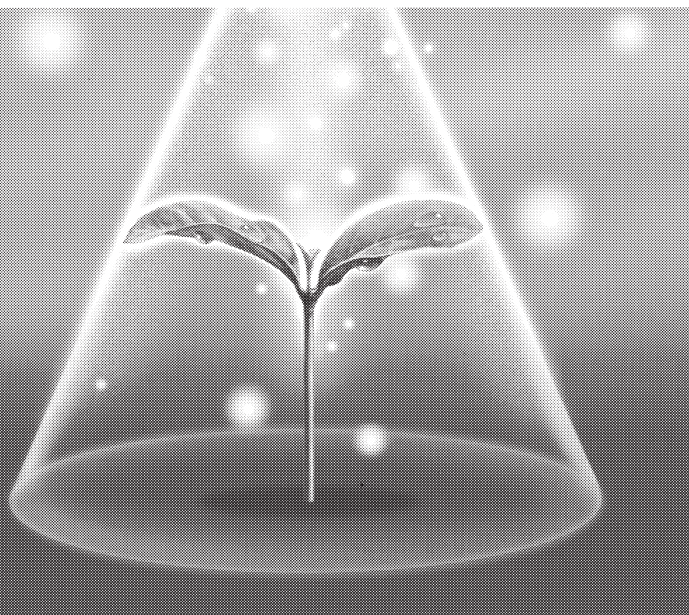
褥瘡・皮膚潰瘍治療剤

指定医薬品・処方せん医薬品(注)

(注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

フィブラスト®スプレー250/500

FIBLAST®Spray250/500 トラフェルミン(遺伝子組換え)製剤 薬価基準収載



- 効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照ください。

製造販売元 [資料請求先]

科研製薬株式会社

〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28-8

(2006年4月作成)06X

お詫びと訂正

会員名簿に書き落としがございましたので、ここにお詫び申し上げ、訂正をさせていただきます。誠に恐れ入りますが、下記の2点を名簿の該当ページに付け加えてください。

1. ページⅡ-1

社団法人日本女医会 定款施行規則 第2章 役員
(役員)

第3条 定款第14条に規定する理事は21～25名とする。

2 会長は連続3期、理事は連続5期までとする。幹事は連続2期とする。

3 全ての役員は立候補時、75歳未満とする。

2. ページⅤ-4 (東京都支部連合会会長、大阪府女医会会長の後に)

大阪支部連合会会長

氏名	〒	住所	Tel & Fax
野崎 京子	565-0084	豊中市新千里南町2-6-12	自 06-6856-0628 診 06-6872-1841 Fax 06-6872-1836

【正誤表】

頁	支 部	氏 名	項 目	誤	正
Ⅱ-1			第2章	21名?25名	21名～25名
Ⅱ-1			第3章	第3章	第3章(見出しのランク上げる)
V-3	大阪8	和田 彰子	名前	彰子	純子
6	青 森	金田八重子	自宅住所	〒031-0045 八戸市鍛冶町1	〒031-0046 八戸市大字町組町1
15	宮 城	小田 泰子	自宅勤務先FAX	022-278-8170	022-727-8170
18	福 島	天田 昭子	開業名	天田小児科医院	天田内科クリニック
33	埼 玉	松村 啓子	自宅住所	〒366-0041 深谷市東方3349-3 048-533-1188	〒332-0012 川口市本町4-6-10-1705
36	栃 木	大塚美恵子	自宅住所	〒329-0433 河内郡南河内町緑4-2-9 0285-44-7843	〒330-0802 さいたま市大宮区宮町2-84-3コンポーゼ大宮306 048-643-4084
41		吉田 穂波	自宅住所	〒321-0964 宇都宮市駅前通2-3-12ザ・ミレニアムタワー704	〒321-0139 宇都宮市若松原1-27-21-312
42	茨 城	工藤 寿美	メール	kudosumi@ind.tsukuba.ac.jp	kudosumi@md.tsukuba.ac.jp
47	千 葉	重城 敬子	ローマ字		JUJŌ Keiko
			勤務先		重城病院 〒292-0003 木更津市万石341-1 電話：0438-41-6411 FAX：0438-41-7779
			自宅FAX		0438-41-3393
			メール		jujojin@d3.dion.ne.jp
72	世田谷	富川 晶子	勤務先	朝霞病院 埼玉県朝霞市本町3-1-65 電話：048-461-0090	むさしの苑 〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富1784-7 電話：049-259-6122 FAX：049-259-5112
74	中 央	青木 正美	自宅住所	中央区佃1-13-3-1211	中央区佃2-1-1-1604
82	練 馬	正木一七子	郵便番号	177-0063	178-0063
85	港	岩平 佳子	自宅住所	〒140-0001 品川区北品川4-7-10-403 電話、FAX：03-5475-3824	〒106-0047 港区南麻布4-9-34-104
			勤務先電話	03-5793-4646	03-5793-5071
88	目 黒	安田 洋子	FAX	03-3712-4466	03-3713-4466
89		阿部 和枝	自宅住所	新宿区新宿若松28-3-0056	新宿区若松町28-3-703
		今井 三喜	勤務先	榎原記念病院	
92	東女医学内	澤口 彰子	自宅住所	〒102-0075 千代田区三番町7-6 ローレルコート三番町1103 電話：03-5214-6270	〒150-0001 港区虎ノ門4-1-34-2502 電話：03-3431-3173
96		脇坂英理子	氏名	脇坂英理子	小貫英理子 ONUKI Eriko
			自宅住所	〒154-0002 世田谷区下馬1-14-1 電話：03-5481-3745	〒162-0804 新宿区中里町6-1-703 電話、FAX：03-3260-0177
98	都下東	池 香子	専 門	内・小	耳鼻咽喉科
		大場須賀子	専 門	内・小	外科
102	都下西	藤川真理子	卒業大学	東邦大医	東女医大
			専 門	小	糖尿・公衆衛生
103		池田 和子	卒年	平成9年	平成7年
			開業名	又地診療所	久地診療所
			自宅住所	世田谷区成城7-12-16-101	世田谷区成城6-33-12 C-2
109		田村 久子	住所	相模原市相模大野9-15-13	相模原市相模大野9-15-31
110	神奈川	橋本 絹子	勤務先住所		〒214-0014 川崎市多摩区登戸1740 電話、FAX：044-933-5995
113		山下 真紀	勤務先	ソニー(株) 御殿山ヒルズ健康開発室 〒141-0001 東京都品川区北品川4-7-35 御殿山ヒルズ 電話：03-5448-4957 FAX03-5448-4961	相模鉄道(株) 相鉄診療所 〒245-0002 横浜市泉区緑園4-3-28 電話：045-810-0750 FAX：045-810-0753
			横田 仁子	自宅住所	〒231-0856 横浜市中区箕沢87-11

117	静岡	五十嵐いづ子	ローマ字		IGARASHI Izuko
			自宅住所	庵原郡蒲原町蒲原3-11-13	静岡市清水区蒲原3-11-13
			自宅FAX		0543-88-3509
119	静岡	中村 玲子	勤務先	浜松市佐鳴台4-17-22 浜松医科大学 臨床薬理学教室 〒431-3192 浜松市半田山1-20-1 電話：053-435-2385 FAX：053-435-2386	五十嵐医院 〒421-3203 静岡市清水区蒲原3-11-13 電話：0543-85-2251 FAX：0543-88-3509
			メール	reikona@hama-med.ac.jp	Reikona0726@aol.com
			自宅住所	浜松市佐鳴台6-8-18	高橋内科医院 〒432-8066 浜松市志都呂町4961 電話：053-448-7521 FAX：053-448-9786
123	愛知	小栗貴美子	卒業大学	名古屋大学	名大医
130		松山須賀子	自宅FAX		052-851-0761
			勤務先		勸公衆保健協会 〒453-0813 名古屋市中村区二ツ橋町4-4 Tel：052-481-2161 FAX：052-481-7847
131	万歳登茂子	メール	sugako4kids@ybb.ne.jp	ksnmt4kids6m@ezweb.ne.jp	
		勤務先	和田内科病院 〒464-0851 名古屋市千草区今池南25-2 電話：052-732-1118 FAX：052-732-3121	愛知医療学院 〒452-0931 清須市一場519 電話：052-409-3311 FAX：052-400-6413	
135	岐阜	山本眞由美	住所	岐阜市加納高木町3-10-1	岐阜市加納高柳町3-10-1
137	新潟	松原 英子	メール	myamamot@cc.gifu-u.ac.jp	myamamot@gifu-u.ac.jp
			自宅住所	〒950-0100 中蒲郡亀田町本町2-1-27	〒950-0164 新潟市亀田本町2-1-27
140	福井	藤田 常子	自宅FAX		025-381-2243
146	大阪第6	滝 潤子	自宅郵便番号	918-8054	918-8058
155	兵庫	飯島 尋子	勤務先住所	〒541-0046 大阪市中央区平の町2-1-2 沢の鶴ビル8 F	〒541-0041 大阪市中央区北浜1-8-16 大阪証券取引所ビル2F
			自宅住所	〒662-0973 西宮市田中町3-1-805 電話、FAX：0798-22-8308	〒659-0093 芦屋市船戸町5-18-503 電話、FAX：0797-20-8925
156	兵庫	杉原 綾子	専門	小	消化器内科
			勤務先	兵庫医科大学 内科 肝胆膵科超音波センター	兵庫医科大学 超音波センター・内科 肝胆膵科
161	広島	桑原 明子	氏名	杉原綾子	覚野綾子 KAKUNO Ayako
			自宅FAX		0798-41-3032
			勤務先FAX		0798-47-7613
173	福岡	崎村 桂子	メール	sugihara @meiwa-hospital.com	
			自宅住所	広島市安佐南区八木3-25-18	広島市安佐南区八木3-25-12
174	福岡	白水 明代	名前	崎村	崎村
			自宅住所	筑紫野市二日市中央5-12-3	筑紫野市二日市中央5-12-3
177	佐賀	貞包 典子	勤務先	さきむら医院 〒818-0072 筑紫野市二日市中央5-12-3 電話：092-925-9915 FAX：092-925-9900	
			自宅住所	〒808-0144 北九州市若松区高須東1-10-23	〒810-0022 福岡市中央区薬院2-5-41-801
178	福岡	福嶋真由美	勤務先住所	北九州市小倉区舞鶴2-5-12	北九州市小倉区真鶴2-5-12
			勤務先電話		電話：093-582-7730
184	沖縄	譜久山民子	よみ		SADAKANE Noriko
			自宅住所		〒845-0021 小城市三日月町長神田2191-7
184	沖縄	譜久山民子	勤務先	高島病院 〒849-1203 杵島郡白石町戸ヶ町 電話：09546-5-3129	(医) ひらまつ病院 〒845-0001 小城市小城町815-1 電話：0952-72-2111 FAX：0952-72-5550
			自宅住所	佐賀市駅前中央2-2-28-705	〒849-0313 小城市芦刈町永田3379-2
184	沖縄	譜久山民子	自宅住所	杵島郡大町町福母2158	杵島郡大町町福母2151
			勤務先	溝上病院	医療法人順天堂 老人保健施設 敬松苑 〒849-2102 杵島郡大町町福母707 電話：0952-82-3162 Fax：0952-82-5971
184	沖縄	譜久山民子	自宅住所		〒902-0072 那覇市真地42-41 電話：098-855-1987
			勤務先	八重山福祉保健所 〒907-0002 石垣市真栄里438 電話：0980-82-3242 FAX：0980-83-0474	沖縄県福祉保健部健康増進課 〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 電話：098-866-2209 FAX：098-866-2289

●前号188号10ページ7、8行目の「鎌田実」先生は、正しくは「鎌田實」先生でした。鎌田先生ならびに関係者、読者のみなさまに深くお詫言申し上げます。

編集後記

昨年も各地で、会員の先生方の多彩な活動が行われ、本誌に原稿が寄せられました。中でも、女性医師支援に対する取り組みの問題が大きな関心を引きました。巷間言われる医師不足も、それは地域別・診療科別偏在により引き起こされた事であって、女性医師問題がどの程度でこれに関わるのか、道は今始まった所と言えます。ともあれ、昨12月「女性医師の働く環境整備の為に国会内勉強」が開催され平成19年度予算概算要求として、厚生労働省より約13億円が出されました(p13 大坪)。多くの女性医師はこれによって救われると思われ、日本女医会には主導的役割が望まれる所です。12月には別に「少子化と男女共同参画に関する社会環境の国会分析等について聞く会」が内閣府講堂でクローズで開かれています(p13 藤川)。社会風潮は今日日本女医会に追い風とも言えましょう。

広報部 吉馴茂子

日本女医会誌

復刊第189号 2007年1月25日発行

編集人 大坪公子

発行人 小田泰子

制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp

e-mail: office@jmwa.or.jp